

## 第1期 伊勢原駅周辺都市再生整備計画におけるフォローアップ調査結果

まちづくり交付金事業として、伊勢原駅周辺の都市再生整備計画（平成16～20年度）が実施され、平成20年度に事後評価を行い、計画の達成状況を評価しました。今回、目標に掲げた各指標のフォローアップ調査と、あわせて整備された施設の伊勢原駅自由通路や市道164号線などのカラー舗装整備による歩車共存、牛塚下原線のバリアフリー化整備に関する満足度調査を実施しましたので、調査の結果を報告いたします。

### フォローアップ調査の結果

計画に掲げた4つの指標は、目標値の達成及び事業による効果が確認されました。

#### 【指標1】まちなか南北往来者数の増加

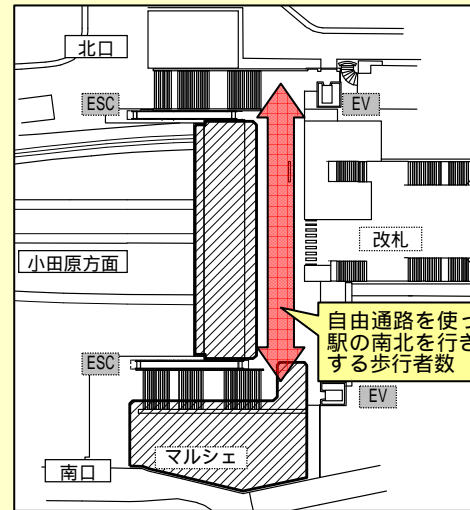
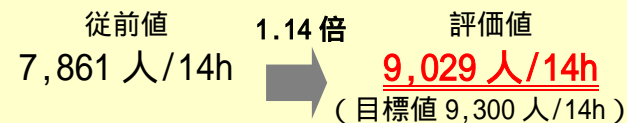
##### 目標

自由通路の拡幅等により、駅の南北の回遊性が向上し往来者数の増加を図る

##### 評価指標の定義

平日14時間（6:00～20:00）に自由通路の南北を行き来する歩行者数（鉄道利用者を除く）

##### 評価値の算出結果



評価値を計測した結果、従前値の7,861人/14hの1.14倍にあたる9,029人/14hとなりました。目標の9,300人には至らなかったものの、伊勢原駅西側の踏切における歩行者数は3,351人から2,637人(-21%)に減少していることや、人口増加率が推計時より少ないことから、エレベーター・エスカレーターの設置を含めた自由通路の整備により、南北の往来がしやすくなり、回遊性が向上したと考えられます。

#### 【指標2】南口アクセス時間の短縮と目的交通の円滑化

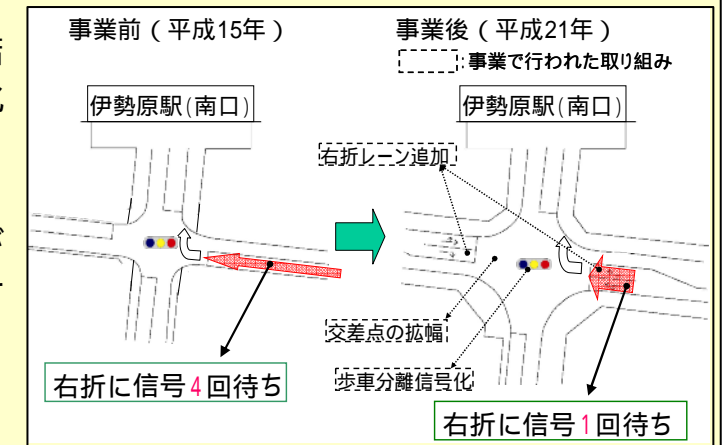
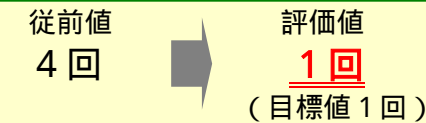
##### 目標

伊勢原駅南口の交差点において、駅や商店の利用など、目的にあった交通処理の適正化を図る

##### 評価指標の定義

最も交差点が混雑する時間帯に、自動車が進出するまでに、待たなければいけない信号の回数。

##### 評価値の算出結果



右折レーンの設置や信号改良により、事業前の交差点を通過するまでに要する信号サイクルの回数が4回であったのに対して、事業後は1回に減少しており、交差点の混雑が緩和され、交通の円滑化が図られたといえます。

#### 【指標3】農産物直売場の来場者数

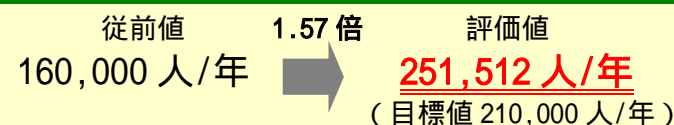
##### 目標

地区特性を活かした回遊基盤により、観光・生活に密着した中心市街地の賑わいを再生する

##### 評価指標の定義

市役所がある行政センター地区周辺の地域産物直売所等の年間来場者数

##### 評価値の算出結果



フォローアップ値を計測した結果、平成21年度の年間来場者数は251,512人/年となり、農産物直売所までの道路を整備し、アクセス性が向上したことや、周辺の回遊性が増したことにより、目標値を50,000人/年上回る来場者数となりました。

#### 【指標4】歩行者のバリア解消率

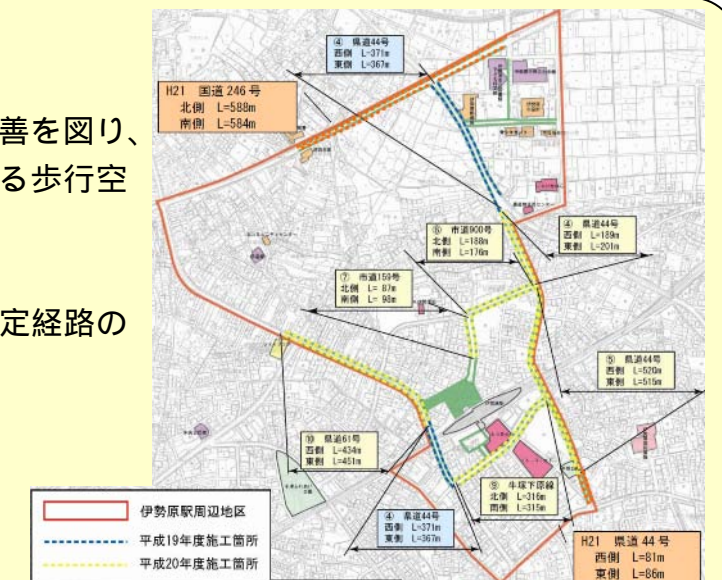
##### 目標

優しさに配慮した駅周辺の交通環境の改善を図り、合わせて修景施設の整備を進め、ゆとりある歩行空間を確保する

##### 評価指標の定義

地区内におけるバリアフリー基本構想特定経路の整備率

##### 評価値の算出結果



地区内のバリアフリー基本構想特定経路の総延長7,261mのうち、5,999mが整備され、整備率は目標値の80%を上回る82.6%となりました。



# 駅周辺整備に関するアンケート調査結果

## <調査の概要>

- 伊勢原駅自由通路や市道 164 号線、牛塚下原線のバリアフリー化整備による効果と、駅周辺の歩行者が快適に利用できる環境づくりのあり方について、ヒアリングや、紙面によるアンケートにより調査を行い、整備による効果についてお伺いしました。全体で 233 件の回答を得ました。
- アンケート調査へご協力いただきありがとうございました。

### 施設利用者への調査

- 伊勢原駅自由通路、都市計画道路牛塚下原線（駅南）、市道 164 号線（駅北）の歩行者に対するヒアリング  
【実施日】平成 22 年 2 月 3 日（水） 【回収数】合計 72 票

### 地区住民等への調査

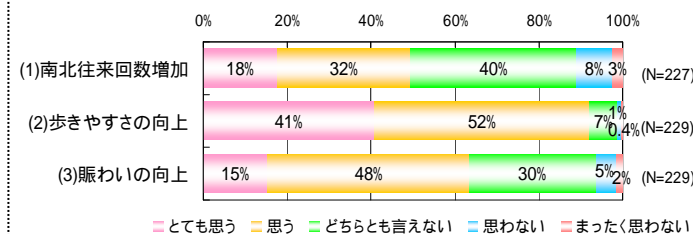
- 公民館での留置き調査（2 箇所）  
【実施日】平成 22 年 1 月 20 日（水）～2 月 3 日（水） 【回収数】合計 129 票
- 伊勢原市子育て支援センターにおけるヒアリング調査  
【実施日】平成 22 年 2 月 3 日（水）～2 月 5 日（金） 【回収数】合計 32 票



## <集計結果>

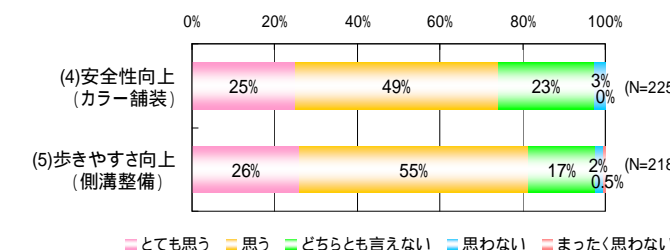
### 伊勢原駅の自由通路について

- 90%以上の方が、自由通路の整備によって歩きやすくなったと答えています
- 一方で、南北往来回数の増加、賑わいの向上については半数程度の方が実感している状況です



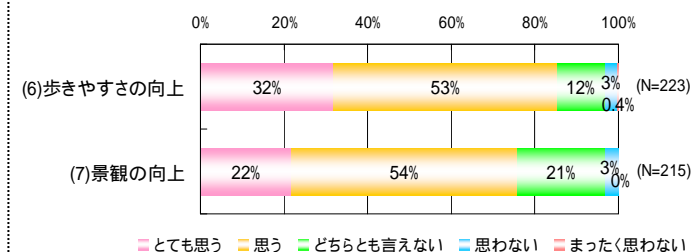
### 市道 164 号線について

- 市道 164 号線での、カラー舗装による歩行時の安全性向上については 70%以上、側溝整備による歩きやすさの向上については 80%以上の方が効果があったと答えています



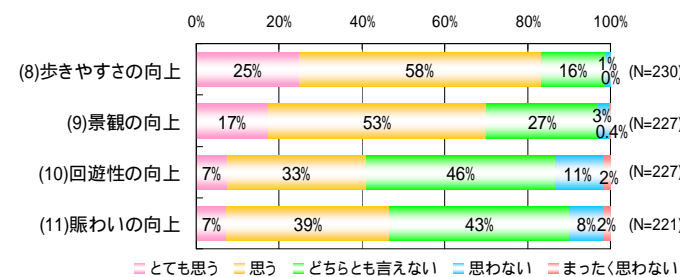
### 牛塚下原線について

- 牛塚下原線の歩道整備により、85%の方が歩きやすくなったと感じています
- また、デザイン性のある街路灯や舗装により、景観についても多くの方が向上したと答えています



### 伊勢原駅周辺の歩行環境について

- 駅周辺の歩行環境全体でみると、80%以上の方が歩きやすくなったとしている一方で、回遊性や賑わいの向上の効果があったと答えた方は半数以下でした



- アンケートでは、上記の質問項目以外に、駅周辺以外の地区でもカラー舗装による歩行者・自動車の分離や側溝などの整備による段差の解消、歩道の拡幅といった整備を進めてほしい、バリアフリー化だけでなく、横断歩道の整備や、歩行環境以外のまちの賑わいの創出などもあわせて行ってほしい、との意見をいただきました。

## まとめ

- 今回の「第 1 期伊勢原駅周辺都市再生整備計画」のフォローアップ調査により、伊勢原駅自由通路整備等においては、歩行者交通量や、歩きやすさなどの意識的な部分においても効果について実感していただけていることがわかりました。
- しかし、駅周辺全体における歩行環境については、回遊性や賑わいの面からの評価が低い状況となっています。また、駅周辺以外の地域でも、安全で快適な歩道整備を望む声をいただきました。
- これらの調査結果を踏まえて、引き続き伊勢原駅周辺地区 2 期計画（平成 21～25 年度）で、効果を持続・発展するよう取組を進めていきます。